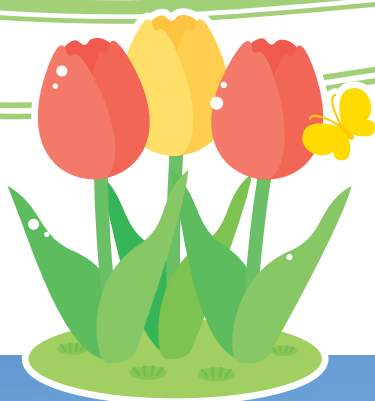


光る風



兵庫県立ひょうごこころの医療センター

〒651-1242 神戸市北区山田町上谷上字登り尾3

TEL (078) 581-1013 (代表)

(078) 940-5510 (地域医療連携部直通)

FAX (078) 581-1005

URL <https://hmhc.jp/>



- ✦ 巻頭言
- ✦ 管理局長ご挨拶
- ✦ 新年度ご挨拶
- ✦ センター長ご挨拶
- ✦ 着任のご挨拶
- ✦ 「子どもの心の診療ネットワーク事業」のご紹介
- ✦ 外来診療のご案内
- ✦ 交通のご案内



院長 田中 究



この4年間の新型コロナウイルス感染症は医療現場をはじめ私たち暮らしにも影響を及ぼしました。私たちの住むこの世界には、年頭の能登半島地震をはじめ、さまざまなストレスがあふれ、生活の変化や心身の不調をもたらします。

しかし、こうした経験を通して、さまざまな技術が開発され、支援の方法が改革され、暮らしのスタイルが変化しつつあります。その中で、当たり前の豊かな生活をとりもどしながら、よい世界となることを祈念し、その起点として、本年度、大きな飛躍をしていきたいと思っています。

兵庫県立ひょうごこころの医療センターでは、精神科医療に求められるさまざまな専門的なニーズに応え、職員一同、学びを重ね、力を合わせて最善の医療を提供できるように対応しております。

児童青年期の方のインターネット・ゲーム依存や不登校の方々、アルコール依存症をはじめとする依存症をもつ方やご家族、認知症をもつ方やそのご家族、デイケアプログラムなど拡充し開催しております。

国は平成18年に病院から地域での暮らしを推進する施策を打ち出し、今年は精神保健福祉法の仕組みが強化され、入院患者さんと支援者との面会制度、地域生活での相談支援体制の充実がなされ、病院内不祥事の通報義務が課せられるなど、地域での暮らしを中心とした公正で人権に配慮した医療を提供することが求められています。

当センターでも、病院は一時的な治療の場所であり、地域で生活することを具体的な形で支援することに取り組んで参ります。そのためにも地域の福祉支援機関、医療機関との連携を一層深め、患者さまご本人はもちろんのことご家族や支援者の方々とともに、最新、最善の人としての尊厳を大切に、だれもが安心できる丁寧な精神科医療をお届けできるように、私ども職員一同全力を尽くして参ります。

ひょうごこころの医療センターの春は花いっぱい、こいのぼりが泳いでいます。今年も新しい時代の精神科医療を築く多くの若手職員が、この花咲く坂道を上がってきました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年も綺麗に「♥」と
「こころ」とお花は
咲き並びました。





管理局長ご挨拶



管理局長 門田 高弘



この度、管理局長として転勤して参りました門田(もんた)です。これまで、他の県立の総合病院で勤務してきましたが、単科の専門病院での勤務は初めてとなります。緊張感を抱き着任しましたが、綺麗に整備された花いっぱいの花壇と春風にたなびく鯉のぼりが優しく迎え入れてくれました。

私事ではありますが、今年は県職員となって40年目の節目の年であり、新しい環境に身を置き、心機一転、職務に専念する所存です。

新型コロナウイルス感染症の流行は、それまで当たり前であった生活習慣やワークスタイル、人との関わり方などに大きな変化をもたらしました。こうした変化はメンタル不調の原因にもなり、精神科医療にも影響を及ぼしています。

また、今年の4月からは、2022年改正精神保健福祉法が全面施行となりました。

これまで当センターは、子どもや青年から高齢者まで幅広い年齢の方々の診断、治療、そして支援を行ってまいりましたが、時代の変化や要請にも柔軟に対応していきたいと思っております。

「人としての尊厳を大切に、だれもが安心できる医療を提供します」という基本理念のもと、この病院を必要とされる患者さんとそのご家族、そして地域の医療機関、福祉支援サービス機関の皆さまにとって、より良い病院となるよう、職員が一丸となって、誠心誠意取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



新年度ご挨拶



副院長 見野 耕一



私は、神戸大学病院、光風病院、沖縄県立八重山病院、神戸市立医療センター西市民病院、尼崎総合医療センターなどで勤務し、令和3年より、再び当センターに復帰して、日々の精神科医療の実践をしております。

昨年度の新型コロナウイルス感染症対策の移行期を経て、現在、本来の当センターとしての精神科医療を実践しております。精神科救急医療センター、依存症医療センター、児童思春期センター「ひかりの森」、認知症疾患医療センターの4部門を中心に、当センターの一員として県内の精神保健医療福祉の向上に寄与することを目的に日々励んでいきます。

地域で暮らす精神疾患患者さんが365日安心して生活できるよう診療体制を整えています。また、地域医療機関の期待にも的確に応えられるように、精神科専門医を養成する基幹医療機関として、よりいっそうの研鑽を積んでまいりますのでご高配ご支援を賜りますようお願いいたします。

副院長 精神科救急医療センター長 診療部長 青山 慎介



円形花壇がたくさんチューリップに彩られ、頭上には色とりどりの鯉のぼりが旗めく春が来ました。私は昨年4月に当センターに赴任しましたので、ちょうどここでの四季を一通り経験しこととなりますが、やはり春が一番です。吹く風も、新たに入職した職員を明るく歓迎しているようです。季節と同じように、人もひとところに止まらず沈滞せず、組織も新陳代謝しながら、よりよい精神科医療を提供するための変化の節目として新年度をとらえたいと思います。

今年度は、副院長、精神科救急医療センター長に加えて診療部長を兼務することになりました。必要な時に速やかに、安全で適切な治療が受けられるための取り組みを進めたいと思います。また、児童から思春期、成人、高齢者に至るまで、すべてのライフステージにおけるこころの問題に対応することのできる当院の最大の特徴を、さらに有機的で繋がりのあるものに、風通しの良いものにしたいと考えています。

センター長ご挨拶

認知症疾患医療センター長 小田 陽彦

兵庫県立ひょうごこころの医療センターには神戸市指定の認知症疾患医療センターが設置されており、認知症に関係した包括的な医療サービスを提供しています。

まず、専門の医療スタッフが、認知症の早期発見と適切な治療に努めています。認知症の症状が出始めた段階から、専門医による診断と治療計画の立案を行っています。神戸市の認知症検診の第一段階と第二段階の両方に対応しています。医師による薬物療法や相談員による介護相談など、受診された方の状態に合わせた最適な治療を提供しています。

また、認知症の人やその家族に対する相談業務にも力を入れています。受診前相談や認知症診断後の相談に応じています。介護保険サービス、薬、介護方法、認知症の行動・心理症状、診断助成制度についての相談が多いです。

地域に根差した活動としては、近隣の医療・福祉施設との連携体制を構築しています。認知症の方が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、病院と地域が一体となったケアを目指しています。

このように当センターの認知症疾患医療センターは、認知症の人とその家族を包括的にサポートしています。地域に密着した活動を通じて、認知症ケアの質の向上に努めています。



依存症医療センター長 置塩 紀章

アルコール依存症をはじめとするアルコール関連問題は、近年医療全般における重要な課題として捉えられています。当センターは、平成8年に治療病棟を開設し治療を行ってきました。また、兵庫県アルコール健康障害対策推進計画の策定をうけて、平成30年に依存症拠点機関・専門医療機関の指定を受けました。依存症医療センターは、アルコール依存症の治療と回復支援を専門に行っています。

まず、入院治療では、医師や看護師、心理士、精神保健福祉士、薬剤師、栄養士など多職種によるアルコール依存症リハビリテーションプログラムを行っています。薬物療法や認知行動療法などを組み合わせ、症状改善と再発予防に取り組んでいます。

外来治療では、通院による継続的なフォローアップを行っています。また、外来治療プログラム「APPLE」を行っています。

家族の方々への支援にも力を入れています。アルコール依存症は家族全体に大きな影響を及ぼすことから、ご家族の疾病の理解と苦労や疲労の受容などを目的として、家族教室を開催しています。さらに、地域の医療機関や行政、自助グループなどとも連携し、社会復帰に向けた取り組みを行っています。

今後も、多職種による多面的なアプローチを実践し、アルコール依存症の治療、アルコール関連問題に積極的に取り組んでまいります。



着任のご挨拶

総務部次長兼総務課長 細見 能文

この度、総務部次長兼総務課長として着任いたしました細見です。

総務課は、患者さまと直接関わることは少ないですが、職員一人一人が安全・安心に業務に集中し、各部署がその機能を十分に発揮できるよう、また病院全体が円滑に運営できるよう職員や部署と連携を図り、患者さまや地域から信頼される病院づくりに取り組んで参ります。

どうぞよろしくお願いいたします。



経理課長 森尾 賢一

はじめまして。この度、(公財)兵庫県まちづくり技術センター財務1課から転勤してまいりました経理課の森尾と申します。

病院での事務は全く初めてですが、以前、県障害者支援課に在籍していたときに、精神障がい者の率先雇用等の障がい者雇用事務に携わっていたことがあります。障がい者の雇用の新規開拓はいろいろと難しかったのですが、県立大学の先生と連携して農福連携等の新規雇用事業を行ったことは大変面白かったことを記憶しています。

病院内では経理事務全般のほか、工事、医療機器等の固定資産、施設設備の保守及び管理関係を担当しますので、どうぞよろしくお願いいたします。



看護部次長兼地域医療連携部次長 津村 かおり

このたび、丹波医療センターより着任しました津村です。初出勤日は、事前の予行演習の甲斐もむなしく、高速道路の降り口を間違えて六甲山頂方面に向かってしまい大汗をかきましたが、青空に元気に泳ぐ鯉のぼりと、これから一緒に働く皆様に温かい笑顔で迎えていただき、こころ新たに第一歩を踏み出せました。地域医療連携部を兼任させていただくことになりましたので、患者さんの「自分らしく生きる」に寄り添い、その人らしいリカバリーを支えていけるように、院内外の方の多職種の皆さんと連携しながら、微力ではありますがご支援できればと思っております。

専門病院での勤務は初めてで戸惑うことばかりですが、少しでも早く皆様のお役に立てるようにがんばります。

どうぞよろしくお願いいたします。



検査技師長 山本 正子

この度、尼崎総合医療センターから着任致しました山本です。マスクを付けたままでは、息が苦しくなる坂道を満開の桜と元気に泳ぐ鯉のぼりたちの応援を受けながら、通う通勤路にも少しずつ慣れて参りました。

当センターの検査室は私を含め技師3人と規模は小さいですが、生化学分析装置や免疫分析装置、超音波検査機器や心電計、脳波検査装置、光トポグラフィー等の機種を備え日々、「人としての尊厳を大切に、だれもが安心できる医療を提供」することに貢献できるよう尽力しております。患者様はもちろんのこと、医療を提供する皆様にも寄り添える頼れる検査室を目指してこれからも技師一丸となって頑張りたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。



「子どもの心の診療ネットワーク事業」のご紹介

「子どもの心の診療ネットワーク事業」連携について

児童思春期の発達や情緒的な問題・行動上の問題など多様な心の問題に対して診療を行っています。

当センターは、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」における兵庫県の拠点病院として位置づけられています。小児科や心療内科、精神科の病院や診療所などの医療機関、児童相談所(こども家庭センター)や保健所などの保健福祉機関、学校などの教育機関などと連携し、診療(相談)支援や啓発活動をはじめ、関係機関の医師や看護師、心理士、相談員などの専門職を対象に、症例検討会を行っています。

また、専門職と一般市民を対象に、子どもの心の問題をテーマにシンポジウムを行っています。昨年度は、「子どもとゲーム」をテーマにシンポジウムを開催し、子どものゲームの問題について理解を深めました。

令和3年度から連携登録医療機関の登録を開始しました。地域の医療機関から紹介された患者様に専門的な治療を行い、病状が安定した後は、治療を継続できるお住いの地域の医療機関へご紹介(逆紹介)させていただくなどの相互連携体制を整えています。

引き続き、兵庫県の子どもの心の診療の充実を目指して事業を展開していきます。



地域医療連携部長
児童精神科担当部長
渡邊 敦司

「子どもの心の診療ネットワーク事業」とは・・・?

平成20年から始まった厚生労働省の事業であり、国立成育医療研究センターが中央拠点病院となっています。

当センターは兵庫県の拠点病院であり、拠点病院を中心に行政や機関の枠を超えて地域のさまざまな機関と手をつなぎ、子どもの心の健康をネットワークでサポートしています。

「子どもの心の診療ネットワーク事業」の3つの事業

1. 子どもの心の**診療支援**事業 ▶ 拠点病院が地域の医療機関や保健福祉機関等に対して診療の支援
地域の関係機関との連携会議を開催、ネットワーク化推進
2. 子どもの心の
診療関係者**研修・育成**事業 ▶ 研修などを通して子どもの心を診療できる医師や専門職を育成
関係者に対し、セミナーや講演会を開催し、専門知識の普及活動
3. **普及啓発・情報提供**事業 ▶ シンポジウム開催などにより、子どもの心の問題や診療に関する情報を
地域の医療機関、関係機関および地域住民に提供等の普及啓発活動

令和5年度活動内容

連携登録医療機関とお互いの現状について意見交換会を行いました。現在、県内の精神科、小児科の医療機関69機関が登録しています。
(令和6年3月31日現在)



医療・福祉・保健・教育関係者に対して症例検討会を4回開催しました。
全国各地で活躍されている先生をスーパーバイザーとしてお迎えし、事例検討会を行いました。



「子どもとゲーム」というテーマにて市民公開講座シンポジウムを開催しました。
市民と共に、医療・福祉・保健・教育関係者合わせて約250名の方の参加がありました。



当センター精神科医による市民セミナーを開催。テーマは「ゲーム依存について」約40名ほどの市民の皆様が参加されました。





外来診療のご案内

※休診日：土・日曜日・祝祭日及び年末年始

- 初診外来は予約制です。初診をご希望の方は地域医療連携部にお電話ください。
- 初診予約受付時間：平日9：00～17：00
- 地域医療連携部直通：078-940-5510

一般成人外来

令和6年5月

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診（再診）	置 塩		田 中		見 野		青 山		田 中	
2診【初診】			担当医		担当医		担当医		担当医	
3診【初診】	小 田		小 田				小 田		米 村	
4診（再診）	木 下		植 田		曾 我		葛 山		酒 井	
5診（再診）	轟		中 井		石 橋		置 塩		北 島	
6診（再診）	茂 木		榎 本		新谷		和 田		堀 本	
7診（再診）	吉 川		佐 藤		久保井		真 殿		小 林あ	
8診（再診）	大 山		竹 中	持 田	関 口	大 山	米 村		袋 井	
9診（再診）	丸 田		丸 田	小 林あ	真 殿	金 田	高 松		土 居	

※診察室1：月曜日の午前はアルコール依存外来（初診）となります。

※診察室3：月曜日・火曜日・木曜日はもの忘れ外来、金曜日の午前はアルコール依存と児童思春期外来となります。

※診察室8：火曜日の午前はアルコール依存外来（初診）となります。

※診察室9：火曜日・水曜日・金曜日の午前はアルコール依存外来（初診）、火曜日の午後は発達外来（初診）となります。

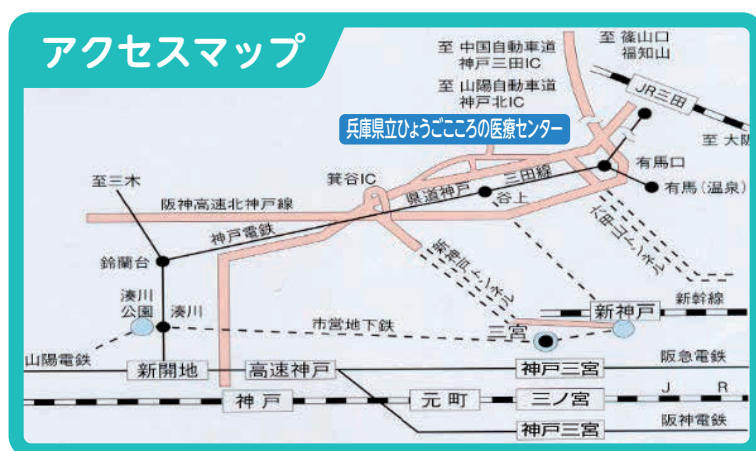
児童思春期精神科外来

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診			松 尾 （再診）			田 中 （再診）	渡 邊（再診）		和 田 （初診）	和 田 （再診）
2診			酒 井 （初診）		尾 崎（再診）				緒 方（再診）	
3診			堀 本 （初診）		佐 藤 （初診）		緒 方 （初診）		榎 本 （初診）	
4診			近 藤 （初診）		茂 木 （初診）		小 林み（再診）		佐 武 （初診）	



交通のご案内

※できるだけ公共交通機関をご利用ください。



【電車でおこしの方は】

- ▶阪急・阪神・ポートライナー・JR三宮駅より市営地下鉄にのりかえ、谷上駅下車、徒歩8分
- ▶神戸高速鉄道・新開地駅よりのりかえ、神戸電鉄・谷上駅下車、徒歩8分
- ※神戸電鉄・市営地下鉄線谷上駅とひょうごこころの医療センターの間で患者送迎バスを運行しています。



※送迎バスの時刻表は、QRコード↑でご確認ください。

【お車でおこしの方は】

- ▶病院敷地内に無料の外来駐車場がありますが、台数に限りがあります。

06病P2-003A4

『人としての尊厳を大切に、
誰もが安心できる医療を
提供します。』

